

中間評価（ステージゲート審査）結果

1. 研究課題名： 認知・実態ネットワークによる社会情報の構造化
2. 研究代表者： 久野 遼平（東京大学 大学院情報理工学系研究科 講師）
3. 中間評価（ステージゲート審査）コメント

本課題は社会情報を「社会の実態」と「人が捉えた世界」に分け、ネットワーク学習やグラフ生成技術を用い構造化することで、新たな分析技術を創出するものである。

フェーズ1では「法とデータサイエンス」に関して、海外の研究者、実務家、企業などとの連携も含めて、挑戦的に研究を実施した。情報学としての成果だけでなく、法学、経済学にも意義のある成果を出すよう務めている。国際共同研究にも発展しており、想定以上の成果が得られている。

フェーズ2では銀行・仮想通貨送金ネットワークの解析を、基盤技術を開発しながら意欲的に進めていく計画であると考ええる。国際比較に重点をおく重複制限対象事業のさきがけ研究との切り分けは明確であり、さきがけの成果を踏まえた展開が期待できる。利用データについては、仮想通貨のデータに留まらず、他の金融データの入手にも尽力されることを期待する。さらに動的ハイパーグラフ、動的有向ネットワークなどに関する基盤技術については、より具体化されていくことを期待する。

以上